

20 第2回多職種連携短期特別研修開催の結果報告と今後の展開

学院 佐藤雅子、関剛規、高橋春一、星野元訓

企画・情報部 発達障害情報・支援センター 石坂務

【はじめに】

多職種連携短期特別研修（以下、本研修）の目的は、多職種連携を効果的に行うためのネットワークの構築に向けて、多職種連携の意義や課題を共有するとともに課題解決のための工夫等を明らかにする、事例検討と施策に貢献できる人材を育成する、の2つである。昨年度に引き続き、学院と発達障害情報・支援センターが主催となり、入間市、入間市教育委員会、埼玉県教育委員会、国立きぬ川学院、国立武蔵野学院、秩父学園の協力を得て、第2回本研修を開催した。第2回本研修の結果と今後の展開について報告する。

【経過】

第2回本研修開催前に検討会を3回開催した。検討会では、第1回本研修の概要と結果を報告し、「埼玉県内、全国へ展開する研修内容と方法について」「修了生との情報共有やネットワーク作り、支援体制等について」の2点を検討した。そして、検討会から得られた知見をもとに第2回本研修を開催した。

第2回本研修には23名の応募者があり、必修科目10科目を履修した受講生22名が事例検討に参加した。事例検討は、『Q-SACCS（発達障害の地域支援システムの簡易構造評価）』¹⁾を使用し、受講生が属する地方公共団体を紹介した上で、事例検討を行った。事例検討は、相談支援従事者指導者養成研修会で実施している『アセスメントのためのフォーマット』²⁾を使用した5分レポートに沿って行った。事例報告については、個人が特定できないように記入上の配慮をお願いした。

事例検討は、ハイブリッド授業（国リハ学院または自宅等から参加）を4回実施し、第1期修了生7名と検討会委員8名がファシリテーターとして加わる形で実施した。全4回の事例検討の出席と必修科目全10科目と選択科目10科目以上履修した22名が修了した。

【結果】

本研修では、オンデマンド授業で知識を共有し、『Q-SACCS』によって地域資源を理解した上で『アセスメントのためのフォーマット』を用いて事例検討をした。修了生からは、実際の現場では専門職と行政職と一緒に事例検討する機会は乏しいという報告が散見された。そのような中で、本研修を地方が主催することを検討する地方公共団体が見受けられるようになってきた。今後は、地方公共団体が主催する本研修をバックアップする体制作りが課題となっている。

【参考】

1) Q-SACCS

Q-SACCS を使った「地域診断マニュアル」(<https://q-saccs.hp.peraichi.com/>)

2) アセスメントのためのフォーマット

近藤直司（2022）, アセスメント技術を高めるハンドブック第3版, 明石書店